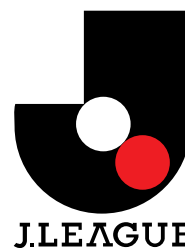


J.LEAGUE NEWS

Official News Letter

vol. 106

21 Jul. 2004



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing J. LEAGUE

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 Jリーグ百年構想



© J.LEAGUE PHOTOS

1stステージ優勝は 横浜 F・マリノス 史上初の3ステージ連続

2004 J1リーグ 1stステージは6月26日、最終の第15節が行われ、横浜 F・マリノスがJリーグ史上初となる3ステージ連続優勝(通算では5度目)で幕を閉じた。

この日、ホームの横浜国際総合競技場に鹿島アントラーズを迎えた横浜FMは、1-0の勝利で勝点を36と伸ばした。優勝のチャンスを残していた2位のジュビロ磐田は、サンフレッチェ広島を4-2と破ったものの、勝点2差は変わらなかった。これにより、横浜FMは12月5、11日に予定される「2004サントリーチャンピオンシップ」への出場権を獲得した。

CONTENTS

1stステージ優勝は横浜F・マリノス……………1-2
昇格のチャンス拡大で大接戦のJ2……………2
チェアマン総括 1stステージ総括/レフェリーについて/観客動員……………3
3-3で初の引き分け 2004 JOMOオールスターサッカー……………4-5
ボランティアもオールスターで/Jリーグサッカーパーク in Niigata……………4-5

TOPICS 理事改選/2003年度収支決算/2005年シーズンのJ1昇格資格審査とJリーグ入会/2004年シーズンの第2登録期間/「第12回Jユースカップ2004 Jリーグユース選手権大会」開催/「第5回豊田国際ユース(U-17)サッカー大会」を後援……………6-7
VOICE 選手は社会貢献活動に目覚めている 加藤富朗……………8

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

LAWSON

KONAMI

Network Partner

NTT 東日本 / NTT 西日本

League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞



鈴木昌子チェアマンからチェアマン杯を受ける中澤佑二選手

優勝争いは昨年の1stステージから3ステージ連続、最終節にもつれ込む接戦となった。第14節で首位に立った横浜 F・マリノスは、2位のジュビロ磐田に勝点2差をつけており、鹿島アントラーズとの試合に勝てば文句なしの優勝。ただし、引き分けた場合、磐田がサンフレッチェ広島を破れば、得失点差によりタイトルは磐田のものになる。

このような状況下で始まった最終節は、48分に広島を逆転した磐田が、この時点でリード



する格好となった。しかし、横浜FMは61分に安貞桓が4試合連続となる決勝ゴールを決め、1-0の勝利。磐田も勝ったが、その差を詰めることはできず、タイトルは横浜FMが獲得した。

横浜FMの勝点36は、昨季1stの32、同2ndの26を上回ったが、決して楽な戦いではなかった。開幕から2試合は1分け1敗。昨季の王者ゆえに、A3 NISSANチャンピオンズカップ、AFCチャンピオンズリーグにも参加するという厳しい日程もあり、コンディション維持に苦労した。

だが、この困難の中で「選手たちは大人になった」(岡田武史監督)という。指揮官は「流れが悪くなくてもあわてず、安定した試合運びができた」「各人がチームとしてのレベルアップを考え、その結果として選手層が厚くなった」と、その例を挙げた。敗れた鹿島のトニーニョ・セレーゾ監督も「ベンチに佐藤(由紀彦)、



© J.LEAGUE PHOTOS

1stステージ優秀選手に中澤佑二選手

2004J1リーグ戦1stステージの優秀選手に横浜F・マリノスの中澤佑二選手が選ばれ、賞金50万円と副賞の腕時計が贈られる。中澤選手は14試合に出場して1得点をマーク。長身を生かしたパワフルなプレーでチームの優勝に貢献した。

中澤選手のコメント まさか自分が受賞するとは思っていませんでした。2ndステージもこの賞に恥じないよう頑張ります。

奥(大介)、中西(永輔)、久保(竜彦)がいるなんて、うらやましい選手層」と認めた。

一方、2002年に両ステージ優勝を成し遂げた磐田は、その後3ステージ連続の2位となった。開幕から6連勝など首位をキープしたが、第14節の鹿島戦をロスタイムでの失点で0-1と落とし、横浜FMにその座を明け渡した。桑原隆監督は横浜FMとの差に、「勝負強さ」を挙げた。

この磐田を筆頭に、横浜FMの牙城をどのチームが崩すが、2ndステージの焦点。もちろん、「選手はたくましくなったが、もっとサッカーのレベルを上げないと」(岡田監督)という横浜FMも、現状に満足する気配はみじみもない。

注目の2ndステージは8月14日に開幕する。

昇格のチャンス拡大で大接戦のJ2 観客も増加

J2は7月11日に第22節を終え、4シーズンぶりのJ1復帰を目指す川崎フロンターレが第2節以来、首位の座をキープし続けている。2位の大宮アルディージャには実に勝点22差をつけ、独走態勢を築きつつある。

来季、J1のチーム数が16から18に増えるため、J2からは従来通り1、2位が昇格するが、3位もJ1の16位と入れ替え戦を行う。このチャンス拡大のためもあるが、2位以下は勝点

が接近する大混戦。試合ごとに順位が変動し、昨季まではJ1で戦っていたベガルタ仙台、京都パープルサンガも思わぬ苦戦を強いられている。

しかし、全日程の半分を消化しただけで、厳しい夏場の戦いも控えているだけに、今後の展開はまだまだ予断を許さない。

ピッチ上の戦いだけでなく、スタンドも活気にあふれている。第22節終了時点における1試合平均観客は7,072人。これは昨季同時期の



© J.LEAGUE PHOTOS

6,944人を上回る。昨季はアルビレックス新潟が観客動員を引っ張ったが、今季は各クラブが平均的に観客増加に貢献しているといえるだろう。

■ 1stステージ総括

優勝した横浜 F・マリノス、2位になったジュビロ磐田は、AFCチャンピオンズリーグ出場と各世代の代表招集という厳しいスケジュールにもかかわらず、最終節まで激しい優勝争いを行った。その健闘に敬意を表したい。

ステージ終盤での逆転でJリーグ史上初の3ステージ連続優勝を果たした横浜FMは、戦いを続けていくにつれ、強さ、たくまさが増してきた。岡田武史監督の見事な選手起用に加え、1stステージ優秀選手となった中澤佑二選手ほか、選手一人ひとりが昨年の年間王者という自信を胸に力強く戦ったと思う。

今ステージも最終節まで優勝争いを演じた磐田は、優勝こそ逃したものの安定した戦いぶりともこ一番の粘り強さを見せてくれた。3位になった浦和レッズの強みは、ブッフバルト監督の下、エメルソン選手、田中達也選手の2トップに代表される攻撃力だろう。終盤、優勝争いから脱落したことは残念だったが、選手層の厚さでは横浜FM、磐田に匹敵するチームに成長したと思う。

昨年不振だった関西勢だが、今ステージは、ガンバ大阪が4位に入る健闘ぶりを見せた。特にFWの大黒将志選手は、日本人

チェアマン 総括

FWの中では最多の9得点を記録。2ndステージでもこの勢いで上位に食い込み、優勝争いを展開してくれるだろう。このG大阪の活躍が、関西サッカーの活性化につながるものと期待している。

そのほか、今季J1初参入のアルビレックス新潟は、地元観客の熱い声援を受けて健闘したが、成績は必ずしも満足のいくものではなかった。2ndステージでは、毎試合駆けつけてくださる多くのサポーターの皆様に満足していただくよう健闘をお願いしたい。また、Jリーグ最年少で話題となった東京ヴェルディ1969の森本貴幸選手の活躍は、日本サッカーの将来に大きな期待を感じさせるもので、ますますの成長を期待したい。

■ レフェリーについて

1stステージでは、いくつかの試合でレフェリーの判定が取り沙汰され、クラブから意見

が出された。各試合における警告等については、「Jリーグ対応セクション」で迅速に対応し判定基準等をきちんとフィードバックしているが、今後は、レフェリーと選手が対話する機会も必要になってくるだろう。

レフェリングのレベルを向上させることは、試合そのものの質の向上につながるもので、今後も審判のさらなるレベルアップを図っていきたい。

■ 観客動員

今年の1stステージは、1試合平均18,763人と、94年2ndステージ以来10年ぶりに1万8千人を上回る観客動員となった。5月2日には、全会場の合計が277,576人となり、J1、J2併せた1節あたりの最高観客動員数を達成した。ここで特筆すべきは、やはり1試合平均40,489人を記録した新潟だろう。熱い声援を送ってくれる新潟をはじめ、多くのファン・サポーターに深く感謝申し上げたい。

高いレベルの試合を続けることが観客に感動と興奮、満足感を与え、さらなる観客増員につながる。2ndステージでもフェアプレーに満ちた素晴らしい試合が展開されるよう、各クラブをお願いしたい。

J1リーグ 1stステージ順位表

総得点：352

試合平均得点：2.94

順位	チーム	勝点	試合	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1	横浜 F・マリノス	36	15	11	3	1	26	13	13
2	ジュビロ磐田	34	15	11	1	3	31	16	15
3	浦和レッズ	25	15	7	4	4	30	24	6
4	ガンバ大阪	24	15	7	3	5	31	23	8
5	鹿島アントラーズ	24	15	7	3	5	18	14	4
6	FC東京	23	15	6	5	4	19	19	0
7	ジェフユナイテッド市原	22	15	5	7	3	28	23	5
8	名古屋グランパスエイト	20	15	5	5	5	24	22	2
9	東京ヴェルディ1969	19	15	5	4	6	21	23	-2
10	大分トリニータ	17	15	5	2	8	21	27	-6
11	清水エスパルス	16	15	3	7	5	20	27	-7
12	ヴィッセル神戸	15	15	3	6	6	21	25	-4
13	サンフレッチェ広島	15	15	3	6	6	15	19	-4
14	アルビレックス新潟	14	15	3	5	7	16	25	-9
15	柏レイソル	12	15	3	3	9	14	22	-8
16	セレッソ大阪	10	15	2	4	9	17	30	-13

3-3で初の引き分け 2004JOMOオールスターサッカー



2004JOMOオールスターサッカーは7月3日、新潟スタジアム(ビッグスワン)に40,640人の観衆を集めて行われ、J-EAST、J-WESTともにゴールの奪い合いとなり、3-3で初の引き分けとなった。通算成績は、J-WESTの5勝1分け4敗(1995、96年は除く)となった。

今年のオールスターサッカーはサポーター投票も白熱し、史上最高の2,351,433票(有効投票)を達成。アテネオリンピックを控え、オリンピック世代の台頭が目立った。MVPはJ-EASTの2得点に絡んだ石川直宏選手(FC東京)が、敢闘賞にはウェズレイ選手(名古屋)が、最も印象的なプレーを見せた選手に贈られるMIPは三浦淳宏選手(東京V)がそれぞれ獲得した。

試合は、J-EASTが6分、石川のゴールで先制、17分には石川のシュートのこぼれ球を田中達也(浦和)がヘディングで決めた。だが、後半に入るとJ-WESTが反撃に出る。49分にはウェズレイのPKが決まり、59分にはウェズレイのシュートをGKがはじいたところを鶴見智美(清水)が走り込んで同点ゴール。80分には、ワンツースからウェズレイが2点目をゴールし、勝ち越した。しかし、J-EASTも意地を見せ、86分に三浦淳宏が約30mの距離から鮮やかなFKを直接決めて同点に追いついた。



© J.LEAGUE PHOTOS

ジャパンエナジー高萩紀社長から祝福される石川直宏選手



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

ボランティアもオールスターで！

JOMOオールスターサッカーに15クラブのボランティアスタッフが集結した。

新潟のボランティアグループ「アライアンス2002」の理事長、金子法泰さんを中心にボランティアのネットワークを通じて集まり、地元新潟の103人をはじめ仙台、山形、大宮、市原、柏、FC東京、東京V、川崎、横浜FM、横浜FC、甲府、磐田、G大阪、C大阪のスタッフ、総勢204人。実行委員長の佐藤哲郎さんは「これだけ大勢の人が、しかもみんな自費で集まってくれたなんて信じ

られません」。柏の宇佐美進さんは「大勢のスタッフが参加したいと手を挙げたのですが、宿泊数に限りがあったので21人に絞りました」と、ボランティアの熱心さを語った。また、ワールドカップがきっかけでボランティアを始めたという野村慶子さんは「いつも若い人たちと楽しくやっていますが、今回は他のクラブの皆さんとできるので楽しみ。今度は私たちも他の地域に行かなきゃねと話しているんです。これを機に交流が盛んになればいいですね」と、こやかに話していた。

MVP

石川直宏選手
(FC東京)

「ケガからの復帰となる試合で不安もあったが、積極的にプレーした。2ndステージ、アテネに向けてアピールする気持ちと、見ている人を楽しんでもらいたいという気持ちでプレーした」

敢闘賞

ウェズレイ選手
(名古屋)

「初めてオールスターに選ばれ、そこでゴールを決めることができた。スタジアムの雰囲気もよく、観客の皆さんに感謝している」

MIP

三浦淳宏選手
(東京V)

「昨日もFKの練習をし、チャンスがあったら狙おうと思っていた。最後に決めることができて満足している。試合の内容もみんなに喜んでもらえるものだった」



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

がっちり握手する反町康治J-EAST監督と西野朗J-WEST監督（左から=前夜祭にて）



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグサッカーパーク in Niigata

JOMOオールスターサッカー当日、新潟スタジアム(ビッグスワン)に隣接するサブグラウンドで「Jリーグサッカーパーク in Niigata」が開催され、14,000人を超える家族連れなどで賑わった。

この日は「Jリーガーズ・ウィーク2004」でもあり、選手協会会長の中山雅史選手が、選手の社会貢献についてPR。「選手の自発的な活動がサッカーの地位を向上させ、多くの人たちに夢と希望を与えられればいい」とあいさつし、訪れた人たちとひとときを過ごした。

恒例となったサッカーパークは、ドリブルやシュートなどを競うサッカーアスレチックやサッカークリニック、そしてミズノのハッピーファミリーバスケットなど、親子で楽しめるイベントが盛りだくさん。パスゲームに参加した主婦の広瀬美幸さんは「初めてやってみて難しさを知りました。もう、選手にブーイングしないようにし

ます」と笑いながら一言。また、地元アルビレックス新潟の選手と親子でミニゲームを行った小林亘さんは「芝生の上でサッカーをするのは気持ちいい。こういう場所をもっと開放してほしいです」と話していた。このミニゲームには、バスケットボール“新潟アルビレックス”の長谷川誠、小川忠晴、堀田剛司、平岡富士貴の4選手も参加し、サッカーチームと4対4で対決。長身を生かしたヘディングで応戦するも、軍配はサッカーチームに上がり、長谷川選手は「今度はバスケで対決しよう」と呼び

かけた。また「このイベントに参加し、もっとこういう交流をやっていききたいと実感しました」と話していた。

試合前のスタジアムでは小学生340人が参加した「ピッチでマッチ」や、14チームのマスケットによる大玉ころがしやPK戦なども行われ、マスコットのコミカルな動きにスタンドから大きな歓声が上がった。

選手の社会貢献について話す中山雅史選手協会会長



© J.LEAGUE PHOTOS

「ピッチでマッチ」には小学生340人が参加。それぞれNorthチーム対Southチームに分かれて対決し、250対104でSouthチームが勝利した



© J.LEAGUE PHOTOS

理事改選

Jリーグは6月15日に開催した理事会で理事の就任を承認した。空席となっていた専務理事には鬼武健二理事が、新理事に(株)三菱自動車フットボールクラブ社長の犬飼基昭



© J.LEAGUE PHOTOS

鬼武健二専務理事

氏、(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー社長の牛島洋氏、(株)ヤマハフットボールクラブ社長の松崎孝紀氏、Jリーグ経営諮問委員長の武藤泰明氏が、また新監事にヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ社長の海野一幸氏がそれぞれ就任した。任期は2004年6月15日から2年間。

就任に当たり鬼武専務理事は「今後はクラブをより発展させ、Jリーグそのものをもっと高いところに押し上げたい。また、Jクラブ、Jリーグ、JFAの三者がよりよい関係を保ち、ともに向上していくような仕事をしたい」と抱負を語った。

なお、前理事の石井幹子氏、岡健太郎氏、小林正三郎氏は参与に選任された。

■Jリーグ理事 ※新任

	氏 名	所 属
理 事 長 (チェアマン)	鈴木 昌 (すずき まさる)	(社)日本プロサッカーリーグ
※専務理事	鬼武 健二 (おにたけ けんじ)	大阪サッカークラブ(株) 前代表取締役会長
常務理事	熊地 洋二 (くまち ようじ)	(社)日本プロサッカーリーグ
理 事	藤口 光紀 (ふじぐち みつり)	(社)日本プロサッカーリーグ
理 事	佐々木 一樹 (ささき かずき)	(社)日本プロサッカーリーグ
理 事	平田 竹男 (ひらた たけお)	(財)日本サッカー協会 専務理事
理 事	池田 弘 (いけだ ひろむ)	(株)アルビレックス新潟 代表取締役社長
※理 事	犬飼 基昭 (いぬかい もとあき)	(株)三菱自動車フットボールクラブ 代表取締役社長
※理 事	牛島 洋 (うしじま ひろし)	(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長
理 事	久保 允誉 (くぼ まさたか)	(株)サンフレッチェ広島 代表取締役社長
※理 事	松崎 孝紀 (まつざき たかのり)	(株)ヤマハフットボールクラブ 代表取締役社長
理 事	小竹 伸幸 (こたけ のぶゆき)	(株)博報堂 法務室 室長
理 事	三屋 裕子 (みつや ゆうこ)	(株)サイファ 代表取締役社長
理 事	三ツ谷 洋子 (みつや ようこ)	(株)スポーツ21エンタープライズ 代表取締役社長
※理 事	武藤 泰明 (むとう やすあき)	三菱総合研究所 主席研究員 (社)日本プロサッカーリーグ経営諮問委員長
※監 事	海野 一幸 (うみの かずゆき)	ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長
監 事	田付 景之 (たつけ かげゆき)	(株)三栄コーポレーション 代表取締役社長

■参与選任

石井 幹子 (株式会社 石井幹子デザイン事務所 代表取締役社長) * 理事任期: 1996年6月18日～2004年6月15日 (在任8年)
岡 健太郎 (東日本ジェイアール古河サッカークラブ 名誉顧問) * 理事任期: 1999年2月16日～2004年6月15日 (在任5年4カ月) * 実行委員任期: 1997年5月20日～2004年5月18日 (在任7年)
小林 正三郎 (株式会社日立柏レイソル 前代表取締役社長) * 理事任期: 1999年2月16日～2004年6月15日 (在任5年4カ月) * 実行委員任期: 1997年6月27日～2003年2月28日 (在任5年8カ月)

2003年度収支決算

Jリーグは6月15日の理事会・総会で、2003年度(平成15年度)の収支決算を承認した。

2003年度の収支実績は114億5千万円を超え、FIFAワールドカップが開催された前年度を上回る過去最高の規模となった。収入面では、協賛金収入が約3億円、商品化権料が約1億9千万円、主管試合の入場料が約1億円の増となった。

2003年度のJリーグ収支決算

(百万円)

	2004年度予算	2003年度実績	2003年度予算
【収入の部】			
1. 入会金・年会費	880	940	880
2. 協賛金	3,564	3,902	3,636
3. 入場料	230	326	207
4. 放送権料	5,000	4,818	5,000
5. 商品化権料	554	739	554
6. その他	417	729	478
収入合計	10,645	11,454	10,755
【支出の部】			
1. 事業費			
クラブへの配分金	6,390	7,667	6,457
その他	2,571	2,255	2,509
2. 管理費	1,564	1,393	1,674
3. その他	117	138	114
支出合計	10,644	11,453	10,755

※四捨五入のため、一部合計が合わないところあり

2005年シーズンのJ2クラブのJ1昇格における資格審査とJFL加盟クラブのJリーグ入会

Jリーグは、来季のJ2クラブのJ1への昇格に関する資格審査および日本フットボールリーグ(JFL)加盟クラブのJリーグへの入会について下記項目を決定した。

■J2クラブのJ1昇格に関する資格審査

- (1) 9月のJリーグ理事会でJ2クラブがJ1資格要件を満たしているか否かを確認
- (2) 経営諮問委員会および事務局は、8月までにJ2クラブの準備状況(特にホームスタジアム計画と財政状況)について調査
- (3) 財政状況の評価は経営諮問委員会が一定の基準に基づいて行う
 - ※本年2月の理事会で「入れ替え戦に出場するJ2クラブは10月理事会までにJ1資格要件を満たしていることを承認されなければならない」と決定された。しかし、10月理事会からシーズン終了まで1ヵ月半と期間が短いため、当該クラブが対策を講じる時間を確保することを理由に、(1)および(2)の通りとした。また、(3)については、J1昇格後クラブの経営規模を拡大することが一般的であることから、J2クラブの財政状態の健全性をあらかじめ確認することを目的として行う。

■日本フットボールリーグ(JFL)加盟クラブのJリーグ入会

- (1) 経営諮問委員会および事務局は、日本フットボールリーグ(JFL)の同意のもと、2005年シーズンにJリーグ入会を希望しているJFL加盟クラブに対しては、8月31日までに次の項目を調査する。
 - ・地域との協力態勢
 - ・ホームスタジアム、練習場の現状および計画
 - ・クラブの経営状態または経営見込み
 - ・その他、チェアマンが必要と認めた項目
- (2) 新規クラブ入会についての考え方
 - ・Jリーグは新たなクラブの入会を積極的に受け入れる意向で、将来的には全国に100以上のクラブができることを目指す
 - ・Jクラブが地域社会に対して果たすべき最大の義務は、クラブとして存続してい

くことであり、この観点から、クラブと地域の協力態勢およびクラブの経営状態について、厳格な事前チェックが必要となる。また既存のJクラブの経営環境およびJリーグの運営方法を急激かつ大幅に変更しなくて済む範囲で、新しいクラブの入会を受け入れていく

- ・2005年シーズンに入会するクラブ数は、4回戦リーグ戦を継続することを目的に上限2クラブが望ましいと考えている

2004年シーズンの第2登録期間(移籍ウインドー)

日本サッカー協会およびJリーグは、海外クラブから選手を移籍させ、登録可能な期間(登録期間、または移籍ウインドーという)を主として1月15日～2月29日としているが、2004年シーズンの第2の登録期間については、2004年7月7日(水)から8月7日(土)とする。これは、日本サッカー協会(JFA)が2003年4月11日付で、国際サッカー連盟(FIFA)に提出した期間、および2月にJクラブの選手契約担当者に確認した期間と同じ。

クラブはこの登録期間内にのみ海外クラブから選手を移籍させ、JFAに登録することができる。なお、2005年シーズン以降の登録期間については、今後あらためて検討する。

■2004年シーズンの第2の登録期間

2004年7月7日(水)～8月7日(土)

■登録期間(移籍ウインドー)制度とは

国際サッカー連盟(FIFA)が定める制度で、選手を協会に登録できる期間を年2回設定し、その期間以外には選手登録を認めない。

※主たる登録期間：原則6週間以内。シーズン終了から次期シーズン開始までの期間内で設定

※第2の登録期間：原則4週間以内。シーズン半ばに設定

※『選手の地位〔資格〕及び移籍に関するFIFA規則の施行規則』第2条より

・各国協会は登録期間を設定し、FIFAへ通知する

・日本から海外へ移籍する場合は、移籍先協会の登録期間による

- ・日本では2004年1月から国際移籍に限り本制度を適用している

第12回Jユースカップ2004 Jリーグユース選手権大会開催

Jリーグは、「第12回Jユースカップ2004 Jリーグユース選手権大会」を開催する。

予選リーグは、J1、J2の28チームを7グループに分け、各グループでホーム&アウェイ方式の2回戦総当たりリーグ戦を行い、各グループの1位7チームと各グループ2位の中から成績上位5チームが決勝トーナメントに進出する。決勝トーナメントは、この12チームに日本クラブユース連盟の代表4チームを加えた計16チームによって、1回戦制のノックアウト方式で争われる。

なお、予選リーグは8月22日(日)から11月21日(日)、決勝トーナメントは12月下旬に行われる予定。

第12回 2004 Jリーグユース選手権大会 JユースCUP

「第5回豊田国際ユース(U-17)サッカー大会」を後援

Jリーグは、日本サッカー協会、愛知県サッカー協会、豊田市等が主催する「第5回豊田国際ユース(U-17)サッカー大会」を後援する。

今回5回目を迎える同大会は、次世代のサッカー界を担うU-17の選手のサッカーを通しての国際交流と選手育成を目的とするもので、8月5日(木)～8日(日)、豊田市運動公園競技場(予選リーグ)、豊田スタジアム(順位決定戦)で開催される。参加チームは、オランダ、アイerland、メキシコ、韓国、日本の各代表に「名古屋グランパスエイト・愛知県・豊田市高校選抜」の6チーム。

選手は社会貢献活動に目覚めている 「Jリーガーズ・ウィーク2004」開催にあたって

Jリーグ選手協会事務局 ◎ 加藤 富朗 (かとう とみお)

今年のJリーグオールスターサッカーの日程に絡めて、各Jクラブ及びJリーグの協力の下、クラブの選手会主体で地域での社会貢献活動を行う「Jリーガーズ・ウィーク2004」を開催した。

選手協会ではかねてより1年に1日でも選手全員が集まって社会貢献イベントを行う『選手協会の日』の設定をJリーグに相談してきた。但し、現実的には選手の日程は日本代表のスケジュールを含めると年々厳しくなる一方で、これも日本サッカー繁栄のためにはやむを得ないことである。その中で昨年よりJリーグと外部の意見も伺いながら、選手協会として選手の社会的な価値や地位の向上を目指すために何ができるか、と種々検討し、まずは前号のJリーグニュースでも紹介していただいた『サッカーの贈り物—素顔のJリーガー—』の出版と、今回の選手主体の社会貢献活動を行うことにした。

2003年度よりJリーグ規約で選手の社会貢献活動が義務づけられ、またすでにクラブごとで多くの社会貢献活動を行っているが、そのほとんどはクラブが主催するイベントである。選手の社会貢献活動に対する意識や意欲は総じて高いものがあるが、実際問題として選手が自ら企画立案をして実施していくのはなかなか

難しい。多くの選手は社会貢献の重要性は理解していても、具体的に何をどうしたいかわからないのが現実である。そんな中、今回はとにかく何かをやってみようということでクラブに相談し、協力してもらってJリーガーズ・ウィークとして実現することができた。選手にとってもサッカーのプレー同様、誰かにやらされる活動ではなく、自らが積極的に仕掛けたいという気持ちは強い。

『サッカーの贈り物』ではそんな選手独自の発案で実行している活動を紹介しているが、例えばヴィッセル神戸の三浦知良選手によるホームタウンでの学校訪問『夢で逢えたら』などなかなかの感動物語も多く、すでに選手が自らさまざまな活動に取り組んでいる実態も浮き彫りになっている。また選手協会では1996年の設立当初より、児童養護施設を対象とした独自のサッカー教室を行っており、この活動

もさらに広げていきたいと考えている。

今回は、J2はリーグ戦の期間中でもあり、結果的にJ1クラブを対象とすることになったが、クラブの日程がすでに固まっていたり、またはオフ期間であったにもかかわらず、J1のほとんどのクラブで何らかのイベントを開催することができた。内容はファン感謝デーのイベントやクラブの恒例行事を利用したケースから、新たに児童養護施設や老人ホームの慰問やサッカー教室、トークショーなど、またチャリティーオークションやフリーマーケットからホームタウンの清掃活動までさまざまなふれあい活動を行った。また、今回は日程の都合により時期がはずれるが同様な活動を企画しているクラブもある。

選手がプロとしてプレーできるのはすべてJリーグを取り巻く社会のお陰であり、選手もこのことは十分に認識している。選手協会としては、選手が自然にあたりまえのこととして自らが社会貢献活動を行っていけるような環境を作りたいと考えており、そのためにも選手の経済的・社会的な地位をさらに向上させていきたいと思っている。

まずはこのJリーガーズ・ウィークがJリーグを代表するイベントに定着するように努力していきたい、皆様の温かいご支援をお願いしたい。

PROFILE



1955年東京都出身。一橋大学卒業。学生時代は関東大学サッカーリーグに所属。1977年東京銀行(現・東京三菱銀行)入行。エジプト、タイ、資本市場部、国際業務部勤務などを経て2002年より現職

『子どものための サッカーがうまくなる本』

ミッキー、ミニー、ドナルド、デジニーなどディズニーキャラクター満載! 次々に登場するかわいいキャラクターたちと一緒に遊ぶうちに、子どもたちはサッカーの動きや技、判断力を身につけていく。男の子だけでなく女の子もいっぱい楽しめる。

解説写真で登場する選手の顔ぶれもスゴイ。現役(女子含む)や元代表など30人を超える選手たちが、鬼ごっこをしたり、ビニールボールでゲームをしたり、転んだり、未来のサッカー選手のために大サービス。「この本が僕の子どものころにあればなあ」と川淵キャプテンの言葉が帯にあるが、うなずける。子どもたちを指導する親や指導者にも参考になる1冊だ。

■タイトル

子どものための
サッカーがうまくなる本

■著

後藤健生、岩崎龍一
山下則之、田嶋幸三

■監修

日本サッカー協会、Jリーグ

■発行：講談社

定価：1260円(税込み)

発売：8月10日(火)



写真提供：© J.LEAGUE PHOTOS



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。